

アジア研究教育ユニット 令和3年度教育研究報告書

事業課題名	次世代グローバルワークショップ
代表者名	落合恵美子、安里和晃
事業概要 (600字程度)	<p>次世代グローバルワークショップは、国際連携大学の次世代研究者（大学院生・PD 研究員等）と国際連携大学の教員が一同に会して開催するもので、世界から集まった同世代の院生や若手研究者の前で、英語で自分の研究成果を発表し、世界の第一線の研究者からコメントを貰うことで、次世代研究者の教育的効果を狙ったものである。国際会議での報告のみならず、司会など運営の経験も積み、さらに英文での論文執筆力を涵養し、ジャーナル投稿への橋渡しとなる重要な機会である。これまで、グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、「国境を越えたクラスメートをつくる」ことを謳い文句に、2008年から年に1度開催し、2013年からその活動をKUASUが引き継いでいる。今回は14回目の開催となり、京都大学主催で実施される。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>アジア研究教育ユニットでは、2021年9月25日（土）～9月26日（日）に第14回次世代グローバルワークショップを「New Normal Lifestyles during/post COVID 19: from Crisis to Opportunity」をテーマに開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度もオンラインでの開催となった。1日目は、落合恵美子 アジア教育研究ユニット長の開催挨拶から始まり、午後にはRound Table Session 開始前に河野泰之副学長からの挨拶がありました。その後、2日間にわたって開催されたセッションでは、2つの分科会に分かれて「ガバナンスと公共政策」、「ジェンダー」、「Post-Covid World」、「教育とパンデミック」、「親密圏と家族」等のテーマで、若手研究者38名による報告が行われた。各分会には、中国、日本、インド、イタリア、ハンガリーなど合計14か国より延べ70名が参加した。2日目のWrap Up Sessionでは、コロナ禍において対面で集まることができない中、世界各国の教員や若手研究者からの意見を聞く良い機会となった等、参加者からのさまざまな意見が寄せられた。時差の関係上、プログラムを編成するうえで、若干困難が生じたものの、運営自体は特に不具合もなくスムーズに実施できた。来年度は15回目の節目となるワークショップである。1回目の原点に戻り家族・親密圏などに焦点をテーマにしてはどうかという提案があった。また、来年度も9月下旬に実施の予定である。</p>